

○宍道湖・中海の望ましい将来像についての意見

- ・ホームページ等による意見募集（5/25～6/30）
- ・「宍道湖・中海の将来を語る会」開催（6月中旬に3ヶ所で開催）  
のべ108名の県民の方から望ましい将来像について意見あり。

県民の方から寄せられた宍道湖・中海の望ましい姿

漁業・生態系等	景観・レクリエーション
<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業振興(再生)、豊かな漁場の形成（24）</li> <li>・魚や貝（あさり）がたくさん採れて、安心して食べることができる（12）</li> <li>・コハクチョウ、ガン、カモ等などの渡来の継続（7）</li> <li>・湖内の水生植物（海藻等）の再生（6）</li> <li>・（海藻肥料を使用した）有機農業の推進（6）</li> <li>・七珍（中海十珍）の養殖場（3）</li> <li>・早朝の中ジミ漁等の舟がたくさん見える姿（2）</li> <li>・豊かな汽水湖（2）</li> <li>・流入河川の堰に魚道を整備</li> <li>・絶滅危惧種オオクグの維持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンド・ヨシ帯や砂浜とあわせた様々な変化に富んだ水辺造成、浅瀬の再生（15）</li> <li>・宍道湖ではヨシ等の水生生物の再生、景観保全（9）</li> <li>・人工湖岸から自然の状態に近い湖岸への戻す（8）</li> <li>・きれいな湖沼で泳ぎたい（8）</li> <li>・レクリエーションの場、観光資源として活用（観光客誘致）（7）</li> <li>・自然再生能力の向上（6）</li> <li>・自然と人間との共存（2）</li> <li>・透明度の改善（湖底が見える）（2）</li> <li>・近い将来、たくさんの人々が近づけるような湖。住民が親しめるような湖（2）</li> <li>・ラムサール条約の Wise use を最大限生かす（2）</li> <li>・20年後も綺麗で様々な表情を持った宍道湖</li> <li>・流入河川の自然再生</li> <li>・釣りをメインとした活気のある街づくり</li> <li>・水都松江・中海の昔の原風景</li> <li>・昭和20～30年代の水質</li> <li>・遊漁船の姿</li> </ul>

教育・普及啓発	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境学習の場として利用促進、環境教育の推進（19）</li> <li>・住民への普及啓発（5）</li> <li>・住民主体の勉強会を開催（地区ごとに当番制）（2）</li> <li>・ボランティア活動の促進（2）</li> <li>・環境教育について、山奥（流域、広い範囲で）からの教育が必要。</li> <li>・ビオパークの造成（環境の場として利用）</li> <li>・地域密着型の取り組みを展開</li> <li>・流入河川調査等に参加者増加</li> <li>・再生のためのエコ活動、アマモの種子採取イベント</li> <li>・子どもから大人まで一体となって取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富栄養化、底部の貧酸素水塊、塩分躍層の問題解決（9）</li> <li>・一層の流入汚濁負荷対策（9）</li> <li>・ゴミ拾い、捨てない、美化活動（8）</li> <li>・ヘドロの無い湖（8）</li> <li>・浚渫地を埋める（5）</li> <li>・研究、科学技術開発・応用（3）</li> <li>・行政、住民、NPOなどの連携（3）</li> <li>・給食を残さず食べる</li> <li>・車の使用を控える</li> <li>・家庭での水使用を控える</li> <li>・自分たちでゴミ拾いなどに取り組むことが大切</li> <li>・流入河川での水域の掘削と川幅の拡幅工事の再検討</li> <li>・米子空港内に運河を設置</li> <li>・宍道湖・中海水環境保全条例の制定</li> <li>・民主導のトラスト化を図る（周水地域、流入河川ごと）</li> <li>・モデル的流域を設ける</li> <li>・森山堤防等の開削幅の拡幅</li> <li>・新しい中海像を育てるべき(昔と同じように戻すことは困難)</li> <li>・まず、今ある中海を保つ、守ることが大切、余計なことをして、自然、時間、お金を無駄遣いしない</li> </ul>